



野尋禾の
ついのべ
その二
(2009/10)

まえがき

まえがき

”野尋禾のついのべ その二 (2009/10)”をお届けします。

私こと野尋禾が2009年10月にツイッター上で発表した超短篇小説を、ほぼ発表順に再録しています。

私のサイト[nogi-zero] (http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/)にも同様のPDFファイルが置かれています。

そちらは、ツイッターで発表したままの状態で、お楽しみいただけます。

こちら、パブ版では、改行を加えたり、句読点の変更など、改良を加えています。

要するに、あたりまえの推敲ですが、いくぶん読みやすくなったかと思います。

願わくば、この電子書籍らしきものが、あなたの暇を潰すハンマーになりますように。

本ファイルに収録された作品の著作権は野尋禾/nohironogi/佐々木秀博に帰属します。

2010/07/26

HP : http://www.geocities.jp/nohiro_nogi/

mail : nohironogi@gmail.com

Twitter : @nohironogi

2009/10/03 - 2009/10/10

#twnovel

その教師を生徒たちは無視する。
同僚たちは憐れみのまなざしをむける。
助言もしない。
教頭や校長は辞表を待っている。
父兄の抗議が来ないのは同レベルだからか。
その教師はこんなことを言う。
「十五夜には月が十五個出ます。よく観察して絵に描いてくること。じゃあ、また来週」

2009/10/03

#twnovel

仲秋の名月。
さっき、幼い娘が兎を発見した。
私とその兎を見失って、もうどのくらいになるのか。
勿論、視力も衰えたが、他の何かも失った気がする。
世界中の民族が、月に異なる幻を見るという。
そして、それぞれに見失うのだろう。
こんな晩に。
月はよく見えているのに。

2009/10/03

#twnovel

「ドリーム・キャッチャーをご存知ですか？」
「いいえ」
「北米先住民の魔除けで、悪夢を受け止めてくれるそうです」
「はあ」
「あなたの胸のアクセサリが、まさにそれです」
「え、そうなんですか？」
「だから、初対面で不躰ですが、僕の悪夢を受け止めてください」
「お断りします」

2009/10/04

#twnovel

雨音が五分も続くと、永遠に降り止まないような気がする。
もし、そのとき、戸外にいたら、気が狂いそうになる。
だって、一生、濡れた靴を履き続けることになるのかと思ったら、正気でいられるわけがない。

え、止まない雨はない？

これが史上初の止まない雨だという保証はないだろう？

2009/10/05

#twnovel

音楽があれば生きていける。
そう言う友人の生活は酷いものだった。
それでも彼は明るかった。
何があっても笑いとばした。
だが、酷使したせいか、難聴を患った。
症状は進行し、聴覚を失った。
それでも彼は明るかった。
彼は言った。耳に聞こえる音楽だけが音楽じゃないんだよ、と。

2009/10/05

#twnovel

地球で水が循環するように、石が循環する惑星がある。
岩石が蒸発し、上空で冷却され、雨になって降り注ぐ世界。
その惑星の紳士は、そうとう頑丈な傘を携帯しているに違いない。
しかも、紳士なら、それを使わないはず。
としたら、恐るべき石頭。
国連はメッセージの送信を見送った。

2009/10/05

#twnovel

幼い頃に見た夢を、また見ている。
古い大きな屋敷の奥座敷で、僕とその子が遊んでいる。
ずっと遊んでいたいのだが、朝が来る。
夜になると、同じ夢。
そんな日々が続くが、唐突に終わる。
夢を見なかった晩、母の実家が全焼していた。
僕は、やっと、遊び相手の素性を知った。

2009/10/05

#twnovel

レインドロップ・ジョーは雨の中。
雨粒の中に隠れてる。雲の上からダイブして、雨粒に潜って降りてくる。
小さな凄い降下兵。
雨粒をクッションに着地する。
雨に紛れて、行動開始。
孤立無援の四面楚歌。
どん底、ぬかるみ、水溜まり。
小さな銃に命を託し、小さなブーツで駆け抜ける。

2009/10/06

#twnovel

首相は悩んでいた。
温室効果ガスを 25%削減しなくてはいけないのに、高速道路を無料化しなくては
いけない。
無料化すると交通量が増える。
温室効果ガスも増える。
どうしたものか。
そこへ、夫人がやってきた。
「お告げがありました。高速道路を歩行者専用になさい!」
「それだ!」

200910/06

珈琲祭り参加作品——

#twnovel

王が急死し、城内はいろめきたった。
国政は滞る。
隣国は探りをいれてくる。
使者をたてて入国。
登城するなり、王に謁見を求めた。
影武者の出番となった。
「王、カロである」
「笑止。そなた影武者であろう。王カロ、王に非ず」
あっさり看破した。
世にいう王カロ王非の故事である。

2009/10/07

#twnovel

台風中心上空。
輸送機はコンテナ投下。
五秒後、コンテナ爆散。
巨大円盤型風船が展開。
本体降下停止。
炭素繊維の二本の糸が本体下部から繰り出される。
逆方向に 500 キロ。
糸巻きの軸はダイナモ。
台風を電力に、さらに電磁波に変換。
蓄電衛星に送信。
この時代、地上に発電所はない。

2009/10/07

#twnovel

台風一過。昨夜来の嵐が嘘のようだ。
といっても、まだ吹き荒れている強風が雲を追いやった青空だ。
外出はまだ危険。
しかし、閉じ込められていた反動で、外の空気が恋しい。
ドアを開けた。
そして、私は見る。
世界の真の姿を。
吹き飛ばされたのは、雲だけではなかった。
そこには.....

2009/10/08

#twnovel

N 平和賞授賞式。
「核の時代は終わった!」
喝采を受けて演説する某国大統領。
「我が国は、恒久的平和の実現を約束しよう。新たな抑止力、新核兵器で!」
会場は沈黙。
と、高笑いとともに某国国家首席の立体画像が出現。
「否、我が国の真核兵器こそ、真の抑止力なり!」
そこへ.....

2009/10/09

#twnovel

月面探査衛星の月面衝突は、月面に潜伏するゲリラへの空爆だった。
大統領は、困難な作戦を成功させた部下たちを秘密裡に賞賛した。
だが、ゲリラ側も黙っていない。

直後に声明を発表。

「当時、現地では結婚式が行われており、多数の民間人が犠牲になった」
復讐の連鎖は続く……

2009/10/09

#twnovel

地球にも輪がある、と主張したのは意外な人物だった。
NASA 提供の地球の写真の北極の上に輪が見える、という。

ガイア仮説と凡神論を繋ぐものだとか。

しかし、その輪は、彼にしか見えない。

彼は歌うように言う。

「天使の目が要る、天使の輪を見るには」
彼の肩書は、自称霊能者。

2009/10/09

#twnovel

曲名は” 緑鎮魂歌”。

その曲は、植物に飛躍的発育を促す。

園芸家は、温室、庭園、農場に、CDを流す。

当然、田畑にも。

そして、革命が起きる。

自我に覚醒した穀物が、収穫する人間を襲うようになる。

人類は食料危機に陥る。

麦酒も日本酒も焼酎も作れない。

アル中は死語になった。

2009/10/10

#twnovel

..... こうして、ついのべ界の祭りと現実界の祭りの間に共時性が発生。
やがて、ついのべ界の祭りが現実界の祭りに発展することが日常化。
その現象は、自然に受け入れられた。
ネット上の祭りが受け入れられた唯一の例外になった。
なぜなら、他の祭りは消防庁の許可が下りなかったから。

2009/10/11

#twnovel

あまり知られていないが、古代印度には原発が存在した。
インドラの矢と呼ばれる超兵器に破壊されるまで稼動していた、と記された粘土板
が出土している。
地球温暖化防止のため、その技術の解明と復活は焦眉の急である。
ちなみに、古代印度の原発の正式名称は”原っぱ発電所”である。

2009/10/11

#twnovel

視察先で国交相は泣いた。
そこは、必要性を疑問視されつつ建設されたダム。
せきとめられているのは水だけではなかった。
夥しい数の凶暴な老婆と女子高生の流出をも防いでいたのだ。
人造湖に沈んだ村は山姥村。
”いちめんのやまんば”の詩で知られる。
国交相は誓う。
ダム、造るべし。

2009/10/11

#twnovel

十五、十六、十七と、私の人生、暗かった。
その後もずっと。
幸せが欲しい。
老けこみたくない。

そんなとき、その教団の噂を聞いた。
入信すれば、少女のまま、ヒロインでいられる。
半信半疑で、その教団の祭りに出かけた。
女神の装束を纏った教祖は、”お姉ちゃん”と呼ばれていた。

2009/10/11

#twnovel

判決は死刑。
裁判官も裁判員も原告も傍聴人も納得した。
ひそかに、弁護士も納得していたかもしれない。
被告は許されざる大罪を犯した。
だが、被告の最期の言葉は、涙を誘った。
「今度、生まれてきたら、借りた本は必ず返します」
図書館法改正後、同様の事例は後を絶たなかった。

2009/10/11

#twnovel

自転車は優れた乗り物だ。
燃料がいらないし、かさばらない。
といっても、それは他の乗り物と比較した場合のこと。
歩道では歩行者に迷惑、車道では自動車の邪魔。
それでも、ひとは自転車に乗る。
いわんや死者をおいてをや。
ふらふらと自転車をこいでいるのが生者であるとは限らない。

2009/10/12

#twnovel

あの子はいつも、学校の図書館の同じ席にいた。
いつも独りで、勉強したり、読書したりしていた。
放課後、閉館まで。
男子の間には、ある噂が広がっていた。
誰もいない時、頼めばやらせてくれる。
真偽は不明だ。
僕が図書館に行くと、いつも誰かいたから。
彼女を盗み見ながら。

2009/10/13

#twnovel

これは史上最長、最も奇妙な文学作品。
一篇一篇が独立しているように見えるが、同一作者のシリーズ作品も、複数作者の
同一テーマ作品も、単発作品も、どこかしらなにかしら関連が見出せる。
膨大な量の断章が絡み合い、増殖し続ける。
序章も終章もない超大河小説。
それが、ついのべ。

2009/10/13

#twnovel

まだチビのこいつを見つけた時、閃くものがあった。
仲間はやめとけって言ったが、迷わずとりついた。
それから四十年以上。
心の片隅からこいつを見守ってきた。
どんどん賢くなる。
人望を集める。
頂点に登りつめる。
よし、今だ。
世界を滅ぼせ！
え、平和賞だ？
やり辛くなるな.....

2009/10/13

#twnovel

十九時のニュース。
アナウンサーは、絶対にかまないし、とちらない。
専門用語も立て板に水。
悲しい話題では涙を誘い、楽しい話題では頬を緩ませる。
微妙な話題では中立を保ち、会社に不利益な発言はしない。
キャリア三十年の私も感心する。
音声と映像の素材提供者は私なのだが。

2009/10/13

#twnovel

女（少なくとも女性型だ）は、またキーボードに指を踊らせている。
もう何時間も、そうしている。
薄暗い窮屈な穴蔵のような部屋で、ヘッドマウント・ディスプレイを装着して。
なぜ、書き続けるのか、と問うと、
「ゴーストが囁くのよ」

そして、また、一四〇文字の物語が送信される。

2009/10/13

#twnovel

友人が紹介してくれた女性は、図書館司書。
眼鏡がキュートだ。
アニメとクルマを愛する俺。
今まで女性に縁がなかったが、司書にも以下同文。
仕事が想像できない。
司書。
司を書く。
つかさをかく。
らきすた？
痛車？
しまった。
ツボにハマった。
吹きそうだ。
「あのう、お加減でも？」

2009/10/13

#twnovel

暗い嵐の夜だった。
街じゅうの家という家が、頑なに雨戸を閉ざしている。
通りを歩く人もいない。
誰もが家の中で怯えている。
こんな誰も見ていないとき、あの鳥は飛ぶ。
僕だけが、それを知っている。
見てみたい。
けど、目を向けると消えてしまう。
だから、夢の世界の空に探すんだ。

2009/10/14

#twnovel

暗い嵐の夜だった。
激しい雨が閉ざした空を、閃光が引き裂き、遅れて轟音。
安ホテルの一室では、毛布を被って震える客に、娼婦が呆れている。
それでも商売は商売。

毛布をはぎとり、衣服を脱がす。
そして、男の恐怖を理解した。
男の腹部に、醜い傷痕があった。
臍があるはずの場所に。

2009/10/14

#twnovel

暗い嵐の夜だった。
長すぎた困難な旅は、一条の稲妻に終止符を打たれた。
落雷を受けて、旅人は昏倒した。
常人なら絶命していただろう。
ほどなく覚醒し、異形の巨軀を起こした。
「すべて、思い出したぞ！俺は……」
獣頭人身の旅人は言った。
彼の過去への、長い旅が終わった。
完。

2009/10/15

#twnovel

暗い嵐の夜だった。
電車が停まり、駅には人が溢れた。
その中に、偶然、同級生を発見。
声をかけ、駅ビル内の喫茶店へ。
やがて電車は動き出したが、雰囲気居酒屋へ。
看板まで吞んで、勢いでホテルへ。
半年後、結婚した。
降水確率五〇%の夜。
降らなかった世界では起きなかった奇跡。

2009/10/14

#twnovel

いまいち面白さがわからず、ツイッターの登録を解除した俺だが、新サービスにはハマった。

直接、通知が来て、登録してみた。
断然、ウェブ版より面白い。
でも、ツイッター・ユーザーの同僚に話すと、変な顔をされた。
奴はまだ知らないらしい。
新サービス、脳内ツイッターを。

2009/10/15

#twnovel

もはや、脳内ツイッターは妄想ではない。
高速通信網を介して、頭部に皮下移植したチップから、クラウド・サーバーに接続
できるようになった。
時と場所を選ばないサービス。
画期的だ。
だが、まだ改良の余地が残る。
思うことと、伝えたいことは、別だ。
分別しないと、時には死を招く。

2009/10/15

#twnovel

王子よ、婆の話をよくお聞き。
我らは、アフリカの夜の種族。
この惑星に最初に降りた種族。
この惑星の暗黒面の支配者。
ゆえに、我らの言葉は、全てに優先される。
これから教える言葉を忘れちゃいけないし、間違ってもいけないよ。
じゃあ、最初の言葉だ。
いえす・うい・きゃん.....

2009/10/15

#twnovel

若葉の頃、君と出会った。
いつも、君のことばかり見ていた。
君が他の誰かといると、無性に腹が立った。
そのために、友達をなくしたこともあった。
思春期は残酷な季節だ。
みんな、君のことが好きなんだと思っていた。
そして、今、僕の隣で眠る君を見て思う。
誰だ、この女？

2009/10/16

#twnovel

と、タグを打つ。

重要なのはこの一点。
場所はどこでもいい。
これが免罪符だ。
これで、何を書いても許される。
半角スペース含めて九文字も費やすが、まだ百三十一文字ある。
もっと短くても、質の高い表現はできる。
例えば、そう……黙ってこの鞆いっぱい番号不揃いで紙幣を詰めろ。

2009/10/17

#twnovel

そのコロニーは宇宙のチベットと呼ばれた。
広大で起伏の多い地形設計が気象制御を困難にし、積雪さえ見られた。
コロニー経営は破綻していた。
そんな環境でも、少年は夢を追い、仲間とともに叶えた。
今、世界中の球団がコロニーに押しかけている。
屈指の天才投手を手に入れるために。

2009/10/17

#twnovel

作った人が作るのをやめても、歌は残る。
歌った人が歌うのをやめても、歌は消えない。
聴いた人が忘れても、歌はあり続ける。
歌は死なない。
だから、目をとじて、三回、唱える。
歌があれば生きてゆける。
歌があれば生きてゆける。
歌があれば生きてゆける。
悲しくてやりきれない日も。

2009/10/18

#twnovel

足踏みして信号待ちしているジョガーの隣に、痩せた老人が立ちどまる。
その口が動く。
ジョガーはイヤホンを外す。
老人は言う。
「膝が泣いておる」
ジョガーは足踏みをやめる。

「体幹を生かすことじゃ」
ジョガーは跪く。
「師匠と呼んでもいいですか？」
そして、歴史が始まった。

2009/10/18

#twnovel

なんとか座流星群というのがあるね。
これが、そのなんとか座から飛来する、と思いきむ人がいる。
そんなわけではない。
たまさか、流星になる宇宙塵が、その方向にあったというだけだ。
普通はね。
所が、今、オリオン座方向から接近する物体がある。
光速に近い速度で。
さて、どうしよう？

2009/10/19

#twnovel

四角いジャングル。
ここに立つために、地獄を
生き延びた。
世界中から拉致されてきた俺たちに、教官は言った。
「ここは虎の穴。とらのあなではない。貴様らは豚だ。書いて、虎になれ！」
次々と脱落者が出た。
最後に残った二人が、今、ゴングを待っている。
ついのべのボクシングの。

2009/10/19

#twnovel

空の戦士は、墜ちた天使。
誰も知らない戦いを戦うのがさだめ。
誰も知らない敵を撃墜し、あるいは撃墜されて、炎の奇跡を描く。
燃え尽きるまでの一瞬だけ輝く。
確実に安全な地下施設で、年寄りたちは、それを流星群と偽る。
不確実に安全な地上では、人々がささやかな願いごとをする。

2009/10/20

#twnovel

古臭い稼業を嫌い、家を飛び出した。

辿りついたのがこの業界。

結局、蛙の子は蛙だ。

ちょっと面倒なだけの違いだ。

軌道計算、落下開始のタイミング、破裂後の型、そして、後腐れのない消え方。

たしかに予算とスタッフは多い。

けどな、親父、おんなじだったよ。

花火師も流星師も。

2009/10/20

#twnovel

声を聞いた。

” If you build it, he will come.”

男は従った。

小惑星圧縮プラントを買収。

圧縮物質で1 G 環境の平面を作る。

そこにドーム型コロニーを建設し、芝生を育成。

惑星外初の野球場が完成する。

観客が押し寄せた。

そして、彼が現れる。

2009/10/20

#twnovel

東北の山村に暮らす祖母の話し言葉には、万葉集と同じ単語が混じっている。

調べてみると、京都を中心にした同心円の外側へゆくほど、古い言葉が残っているのだという。

それなら、最古の日本語は京都から最も遠い土地に遺されているはず。

そう考えた私は、一路、ブラジルへ飛んだ。

2009/10/20

2009/10/21 - 2009/10/31

#twnovel

君達は間違っている。
諸君がマジックテープと呼んでいるものは、平面ファスナーだ。
マジックテープではない。
なぜなら、NHKのアナウンサーがそう言うからだ。
それから、本物と間違えるからだ。
先日も、そのために弟子が鳩になった。
魔法のテープは大変に危険なアイテムなのだ。

2009/10/21

#twnovel

月に一度、屋台が来る。
湯気に村人が群がり、すぐ売り切れる。
匂いだけ残して。
”宇宙のチベット”といわれる辺境のコロニーでは、それだけが愉しみだ。
勿論、串刺しの大きな具は合成食品。
例外は竹輪麩だけ。
彼等はそれを”オデン・チビターノ”と呼ぶ。
由来は、誰も知らない。

2009/10/22

#twnovel

砂漠はヒトを変える、というのが、あの女の変わりようはどうだ。
隊商が全滅して、一人、街に戻ってきた。
自分はもう死んでいて、この身体は抜け殻だ、などと語る。
底なしの穴みたいな瞳をして。
あれは、砂漠を迷うものに魅入られたのさ。
気持ちはわかるが、諦めな。
魂、抜かれるぜ。

2009/10/22

#twnovel

東北の旧家で発見された石板は予言書だった。
特異な文字は、五十音に対応していた。

曖昧に列記されていたのは、世界史上の重大事件。

現代のくだりには

”ウシナカレコトワレシメスモウスツイタニヤドラン”

当主は漢字をあてた。

”牛勿言吾示申対他式宿乱”

ついのべの発生である。

2009/10/22

#twnovel

眩鬼地獄は無間地獄の下にある。

墮とされた魂は熾烈な戦闘に巻き込まれる。

その戦争には始まりも終わりもない。

また、理由も存在しない。

戦うために戦う。

それを疑うことも忘れてしまう。

敵の名はBOT。

武器は百四十の文字。

それが、

”Battle Of Twitter”

2009/10/22

#twnovel

黄色い魔女って、それはないでしょ。

東洋の魔女もやめて。

びゅーりほ、わんだほ、くらいでいいって。

なんで、こんなにウケるの。

こんなとこで。

ベガスまで百マイル、コーヒーマシンの壊れてるカフェ。

チップがわりに、鶴を折っただけなのに。

だから、あたしにチップはいいの。

2009/10/23

#twnovel

研究室は無人。

その主である友人が消息を絶って数日。

つきあいづらい奴だが、ツイッターの投稿にはよく笑わされた。

たしか、単細胞生物の研究をしていたはずだ。

ここにはいないか。

立ち去ろうとしたとき、床に蠢く半透明の何かを見つけた。
変形して文字になる。

”アメーバなう”

2009/10/23

#twnovel

赤の魔女が恋に落ちた。
想いびとは、普通の人間。
働き者で人気者。爽やかな笑顔、きらっと輝く歯。
寝ても覚めても、彼のことばかり考えている。
しかし、魔女は魔女。
巨大な鎌と巨大なハンマーを受け継いだ、忌むべき者。
それでも、勇気を奮いおこし、声をかけた。

「同志……」

2009/10/23

#twnovel

魔女の季節がやってきた。
女たちは魔女になる。
男たちは、収穫をすますと、さっさと村を出て行く。
子供は逃げられない。
魔女どもの横暴に耐えなきゃいけない。
箒に跨がった先生が上空から降りてきた。

「この箒、何の隠喩か知ってる？」

答えられない。
赤面するだけ。
知ってるから。

2009/10/23

#twnovel

緑の魔女にはなれなかった。
だから、街に出た。
どんな植物でも見事に育てる名人。
それが母親。
でも、娘は朝顔も枯らしてしまう。
短い会話の蓄積で、半年かけて、それらのことを知った。
でも、彼女も緑の魔女の素質はある。
僕の店で買ったサボテンが並ぶ部屋を見て、そう思った。

2009/10/23

#twnovel

マスクは顔の一部。
顔の一部はマスク。
私たちは、耐性更新型非季節性ウィルスが蔓延する時代に生まれた。
マスクなしの生活を知らない。
マスクを外す食事中は人の顔を見ない。
危険だから。
つい見てしまって、元カレとは別れた。
でも、すぐに次の恋に落ちた。
学食のテーブルごしに。

2009/10/24

#twnovel

大統領は不機嫌だ。
心情が理解できるから、補佐官もやりにくい。
「あなたは死海文書に従わなくては」
「承知してるさ。最初のオバマと最後のオバマが接触すれば、世界は滅びるんだろう」
「そして、それはかの地の地底に封印されている」
「しかし、行って見たかったな。日本の小浜市」

2009/10/24

#twnovel

中島みゆきが、シェイクスピアに挑戦。
客演に迎えるのは、松任谷由実、谷山浩子。
題材は、”マクベス”。
だが、本物の馬は走らず、バーナムの森も動かない。
セットは大鍋だけ。
そう、主役は三人の魔女。
”マクベス翻案・三人の魔女”
(公演日程は劇場にお問い合わせください。)

2009/10/24

母ちゃんが寝こんだ。
泣きながら、俺が作ったおかゆを食べてる。
お礼なんていいよ。
母ちゃんは、一晩中、行列に並んだ。
粗悪な広告入り無料マスクじゃなく、高機能なブランドものを買うために。
俺が馬鹿にされないように。
でも、平気さ。
俺、元から馬鹿だから。
あ、玉子酒、作るよ。

2008/10/24

基本的には音声入力。
でも、AI が声帯をスキャンするから、発声しなくてもいい。
映像は、鼻あてから瞳孔に投影される。
視界に重なるけど、すぐに慣れる。
音声は、耳かけ紐に骨振動スピーカーが装備されてる。
最近のネットマスクは凄いな。
ウィルス対策？
ソフトは同梱されてるよ。

2009/10/25

相談者は携帯をいじりながら言う。
「生きててもいいことなんかないじゃないですか」
「そうかな」
「そうっすよ。何か言えば恨まれたり、人の言うことはいちいちイラッとくる」
「しかし、それが人間社会だよ。ネットやゲームに逃避しても」
「はあ？ これ、ネトゲの中の話なんすけど」

2009/10/25

店の前を何往復もしたすえに、入店した。
カウンターの向こうに彼女。
普通に
「いらっしゃいませ」
誰も並んでないから、まっすぐ彼女の所へ進む。

彼女が目を逸らす。
「ご注文は？」
「あのさ、僕……」
後が出て来ない。
メニューが目に入る。
「スマイル」
「お、お時間いただけますか？」

2009/10/25

#twnovel

「経過は順調ですね」
と、医師は言った。
「骨密度の減少と硬度強化のバランス、筋肉燃焼の高効率化も、数値的には問題ないですね。いかがですか、移植部位の筋トレは？」
「はい。楽しくやってます」
「それはいい。このぶんなら、予定より早く飛べるようになりますよ。ご自分の翼で」

2009/10/26

#twnovel

何か忘れてる。
何を忘れたのかわからない。
でも、心に穴があいている気がする。
気になってしょうがない。
いっそ、忘れたことも忘れていたらよかったのに。
きっかけがあれば思い出すかもしれない。
散歩に出かけた。
まだ、思い出せない。
所で、交差点で光ってる赤いの、何だっけ？

2009/10/27

#twnovel

孫娘がふさぎこんでいる。
雨上がりに干したお気に入りの傘が飛ばされてしまった、という。
私は傘の絵を描き、動画投稿サイトで呼びかけた。
”この傘を探しています”
拾った人が名乗り出た。
早速、受け取りに向かった。

ブラジルへ。
隣家の庭に落ちていた、と知る前日のことである。

2009/10/27

#twnovel

靴は賢くなった。
センシング・デバイスが着用者のあらゆる情報を取得するのだ。
解析結果を利用するソフトが続々リリースされた。
リハビリ、トレーニング、ダイエット。
だが、ある舞踊家育成ソフトの存在を知るものは少ない。
”赤い靴”
死ぬまで踊りつづける、呪いのソフトである。

2009/10/28

#twnovel

時間が始まる前、真の真空があった。
そこで何かが起こり、この宇宙が生まれた。
やがて、おなじみの宇宙の姿が形成され、人類が出現し、歴史を刻んできた。
子供の頃、そこまでを夢に見た。
以来、夢を見ない。
ただ生き続けた。
宇宙が収縮し、時間が終わるまで。
長く短い物語だった。

2009/10/28

#twnovel

へえ、リスト作ったんだ。
早いなあ。
あ、僕も入ってるの。
リストは、小学生の頃から作った？
なにそれ、まあいいや。
”shine_shine_list”って名前なんだ。
”輝け、輝け”か。
いいんじゃない。
違う？
ローマ字読み……僕も入ってるって、おっしゃいましたよね？

2009/10/29

#twnovel

エアタグ使用ツールが進化した。
発話者にカメラを向けると、任意の言語に翻訳され、エアタグに表示されるのだ。
外国人との会話には必需品だ。
現在、旅行中なのだが、食事中、白人らしい男性が話し掛けてきた。
カメラを向けた。
だが、翻訳不能。
彼は言う。

「ケ」

ちなみにここは青森。

2009/10/29

#twnovel

俺に日本は狭すぎる。
少年はロッカールームでうなだれていた。
超高校生級の俺が、こんな島国で.....と、その肩を叩くものがある。
煙草のように、シャボン玉を吹く変な男。

「私と来たまえ」

差し出された名刺には、宇宙野球連盟理事。
少年は即答した。

「いや、日本球界が待ってるんで」

2009/10/29

#twnovel

教育評論家いわく、子供と同じ趣味を楽しむのはよくない。
それが大人の権威を失墜させるのだ、と。
アニメばかり、ゲームばかり。
なるほど、昔、父を畏怖したのは、僕に理解できない趣味を楽しんでいたからか。
だから、大人になった今も怖いのだ。
父さん、泥鰌すくい楽しいですか？

2009/10/29

#twnovel

航時機は、未来に到着した。
私は光学的に身を隠し、都市に潜入した。
人波に流され、宗教施設へ。

十字架が掲げられている。
キリスト教系か。
信者がミカエルの名を唱えている。
壇上に指導者が現れた、と思ったら、衣服を裂きながら、激しく踊り狂う。
ミカエルはマイケルだったようだ。

2009/10/29

#twnovel

おかしいな扮装をした子供達が、手当たりしだいに民家に押しかけている。
集団ピンポンダッシュかと思いきや、お菓子を貰っているみたいだ。
わけがわからない。
悩みつつ帰宅。居間で寛いでいたら、うちにもやって来た。
英語で話しかけられた。
仕方ないので、呟いてやった。
百四十字で。

2009/10/30

#twnovel

マドカとラクは双子の兄弟。
二人そろって腕白小僧。
いつも大人を困らせる。
とても仲良し。
いつでも一緒。
好きなものも一緒。
それは座布団。
正確には座布団をひとに運ばせること。
運ぶのは、子分のマコトくんとタカオくん。
今日も、双子の元気な声が聞こえます。
「全部とんなさい」

2009/10/30

#twnovel

「お菓子をくれなきゃ、いたずらしちゃうぞー！」
扮装をこらした子供達が家々をまわっている。
「お菓子をくれなきゃ、いたずらしちゃうぞー！」
どの家でも微笑みとともにお菓子を差し出す。
所が、ある家ではお菓子のかわりに拳骨を貰った。
「鍵括弧こみ二十三文字。長すぎるだろ！」

2009/10/31

#twnovel

上級魔女狩り士認定試験に合格した。
これで、やっとニート返上だ。
狭き門に挑む僕を、みんな憐れみのまなざしで見た。
それも終わり。
これからは畏怖の目で見ることになる。
特に女性は。
恩師の言葉を、僕は噛みしめる。
「魔女が女なのではない。女が魔女だ。誰だって魔女にできる」

2009/10/31

#twnovel

日本では子供より大人のほうが盛り上がってる。
そういう声をよく耳にする。
ハロウィンの話だよ。
ほら、ごらんよ。
扮装した子供たちの先頭を歩く、あの大男。
流行にのせられたいいい見本だね。
もじゃもじゃ頭に角なんかつけて。
「トリッ、クオリア、トリート！」
だって。
なんだそりゃ？

2009/10/31